

川崎・多摩丘陵の里山を守る会

熊野森・里山通信

<http://www.k-satoyama.org>



熊野森緑地の散策路づくり



貴重な自然が残る多摩丘陵の一部である末長熊野森緑地は、溝の口駅と梶が谷駅からの徒歩圏内にあるという利便性の良さに加え、近年は、生物多様性、地球温暖化と環境への意識の高まりから、年々この緑地を散策する人が増えています。

馬蹄形の斜面ゆえに、保全活動を行う際は、平らな広場、南斜面、北斜面に分けて作業しています。

広場にはテーブルが常設され、山桜、河津桜、アズノの木などが自生する近隣住民の憩いの場となっています。

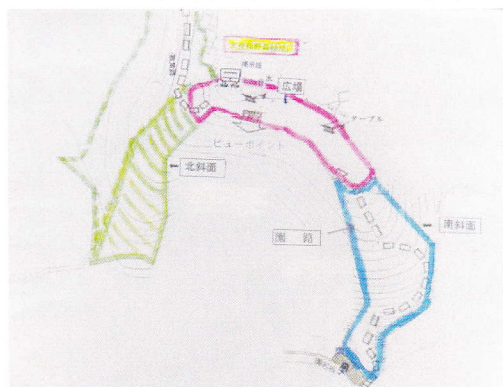
南斜面は、枝おろし、アズマネザサ刈りが主な作業となります。増福寺方面の階段、つまり市道に面している末長熊野森緑地の園名板がある入り口へ向かう階段の両脇に、コナラ、エゴノキ、ムラサキシキブ等が育ち、雑木林らしくなってきました。

北斜面の通路は、(上部に) マンション側に続く道だけしかありません。そこで、今年度は北斜面に散策路を作る作業を進めています。散策路を作る手始めとしては、歩く道を決め、草木を刈り、簡単な目印を設置します。手入れなしの状態では、アズマネザサが繁り、クズのつるが伸び放題になってきてしまいます。そのような場所で植生と土壌を考慮しながら、歩道を決めていくのは、工夫と時間が必要なのです。

繁殖力が旺盛なアズマネザサを見て、「いつもアズマネザサとの戦いね」と談笑しながら、ひたすら刈り取っていきます。様々な若木が自生しているため、残す木を決め、他は伐採します。また、ホタルブクロ、オカトラノオ、シュンラン、アケビなどの山野草も自生しています。それら植物の生育を促しつつ、人が歩く場所を決めながら、日光が緑地に差し込むように周りの木を剪定、伐採しています。木札を付けた木を目印にして、散策路を決めています。散策路作りは、雑木林の再生を目指し、計画的に里山を創生するために必然的に生まれた作業なのです。

北斜面は下へ降りても行き止まりとなっているため、草刈り、伐採等の作業以外に足を踏み入れる人がおらず、珍しい山野草が自生しているという利点がありますが、この緑地を訪れるみなさんが森林浴を楽しめ、大切な場所になることを願いつつ、散策路作りを実施しています。

(やよい もも)



「春の植物観察会」今年も実施しました！

2016年4月17日(日)、当日は朝から小雨模様でしたが、昨年と同様に末長熊野森緑地にて植物観察会を行いました。宮前区神木本町在住で森林インストラクターの小林さんを招き、熊野森緑地の草花や若木の観察、樹木の年輪の学習など、普段は何気なく見過ごしている地元の草花の名前・特徴などについて解説していただきました。

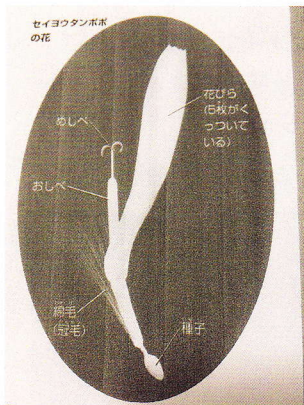


「里山を守る会」の会員以外の近隣の住人も、この観察会に加わり、総勢12名が参加し、ルーペを覗きながら実際の草花を手に取り、じっくりと観察したり、あらかじめ用意した野草図鑑と比較したり、草花の名前の由来などについて学習しました。

ヘビイチゴと三つ葉ツチグリとの違いや、西洋タンポポと日本タンポポの違いについては、小林さんからの解説を聞きながら観察しました。タンポポは1枚の舌形の花びらをもつ小さな花がたくさん集まって、ひとかたまりになっており、1つの花には5枚の花びらが1枚にくっついたもので、ルーペで覗くとその花の先が5つに分かれていました。また、1つ1つの花に、それぞれめしべとおしべがあることも知りました。一輪のタンポポの花の数は、西洋タンポポでは200から300個の花がかたまっていますが、日本タンポポでは200個以下と少ないそうです。このように、植物観察会を通じて、新たな発見もあり、有意義な時間を過ごすことができました。

熊野森緑地において10年以上も観察することができなかった「キンラン」が数本ほど花を咲かせようとしていました。こうした結果は、森林インストラクターの小林さんによると、熊野森緑地で草刈りや剪定作業を私たちが根気よく続けてきたおかげで地面にまで一定の日差しが注がれるようになったため、土の中でじっと耐えてた「キンラン」の根が復活したのではないかと分析されていました。私たちの地道な緑地保全作業の「賜物」とであると再認識をすることができました。

(楓まあさ)



畑たより

都会に生まれネオン街という環境の中で育った私は、少年期より農作業に遠い憧れを持っていました。昨今、特に無農薬野菜や有機農業等といったものが広く支持されている時代に、里山の会で運営している自家菜園で、しかも小学校の息子と一緒に携われることは大きな喜びであります。

菜園作業の醍醐味は何と云っても、種を撒いたところから、収穫までを自分たちの手で行うということにつきまますが、もうひとつ、その過程において様々な発見や驚きに出会えるということです。その最たるものとしては、良い野菜を育てるためには、まずは良い土壌を育てなければならないということです。良い土壌には野菜以外にも様々な植物や虫たちが集まり、ともに育っていきます。そんな生き物たちを目の当たりにする度に、人間の子どもの教育もまた同じなのではないかと感慨を覚えることもあります。そしてその延長線にある収穫時の喜びこそ、自然の恵みというものの尊さや深みを改めて感じるができる瞬間なのです。



私たちの畑はほんの小さな自然界ですが、そんな中からでも感じ取れる摂理の匂いを一人でも多くの子どもたちに知ってもらいたいと土を返す度に思っています。

(草木)

夏休みボランティア活動報告

S 中学校二年 S さん

私は夏休みの宿題としてボランティア活動をするようになったとき、自分の身近なところで何かできることはないかと考えました。そして自分の住んでいるマンションの近くで里山を守る会の活動があることを知り、7月の里山の会の保全活動日に参加させていただきました。

<活動内容>

■ 末長久保公園の清掃

- ・落ち葉を竹ぼうきや熊手で掃き、土に埋めました。こうすると堆肥（有機物を微生物によって完全に分解した肥料）になります。
- ・公園に生えている大きくなりすぎた木の枝を切り、太い枝はまとめて紐で結び、細い枝、葉は白いビニール袋に入れました。
- ・ゴミ拾いをしました。

■ 熊野森緑地の保全活動

緑地内にたくさん生えている雑草を刈りました。

私がやった落ち葉掃きやゴミ拾いだけでも、範囲が広いとかなり疲れるということを実感しました。枝を切り落とすなどの力仕事は男性がいないと大変です。また掃き集めた落ち葉を土に埋めて堆肥にするというのは、とても自然によいと思いました。

緑地のほうでは、私は雑草を刈りましたが、新しい遊歩道を作る準備をしている方々もいました。今回はしていませんでしたが、名前の分からない木を調べて、木の名札をつける取り組みなどもしている

そうです。里山を守る会の活動には様々なものがあり、どれも手がかかる大変なものであることが、今回の活動を通してわかりました。

私は以前、公園がいつのまにかきれいになっていたり、緑地の雑草が短くなっていたりするのを見て、いったい誰がこのようなことをしてくれているのかなと、ずっと疑問に思っていました。里山を守る会の方々が定期的に活動し、公園や緑地をきれいにしているということ、この辺りの地域の人たちに広く知ってもらいたいと思います。そして公園には無造作にゴミを捨てないでほしいです。

久保台公園や熊野森緑地は、どちらも私の自宅から五分以内のところにあります。これから私ができることは、たとえば公園に犬の散歩などで立ち寄ったとき、ゴミが落ちていたら積極的に拾ってゴミ箱に捨てる、緑地に犬を遊ばせに行ったら、周りの木や草花に目を向ける、などです。里山を守る会は月に一回活動をされているそうなので、また参加したいです。



久保台公園まつり

桜が散り、新緑がみずみずしさを増す中、今年で10回目となる久保台公園まつりが行われました。

「里山の会」の活動場所の近隣に自生しているヨモギを使った「ヨモギ団子」や、杏を漬けた「杏酒」などの販売を行い、ご来場いただいた皆様にお召し上がりいただきました。おかげさまで、お団子は多くの方にご好評をいただき、杏酒も会員の隠し味が手伝ってか、お昼過ぎには完売となりました。玉こんにゃくやフランクフルトも早々に売り切れ、予想外の人手に会員たちも大慌てでした。

また、今年から新たに子どものコーナーを設け、「のこぎり教室」、「竹細工教室」を実施しました。普段は手にする事の少ない工具や、竹で作るけん玉に子どもたちも大興奮で、行列ができるほどの大人気でした。ここでも熊野森の保全活動にて伐採された竹が使われており、竹細工という形になったものに触れることで、自分たちの住んでいる土地の自然との繋がりをを感じるきっかけになればと思います。

フリーマーケットでは近隣の方々により小物や洋服などをご出展いただき、地元うたごえサークル「まぎば」による演奏もあり、和気あいあいとした雰囲気の中での閉会となりました。多くの新設マンションが建ち、末長に新たに居住する人が増える中、地域の交流の場としての一助となることを願っています。 (荻野ススキ)



お知らせ

第11回久保台公園まつり 開催日決定! 2017年4月1日(土) 10時~14時

里山ボランティア育成講座を受講して

昨年、(公財)川崎市公園緑地協会主催の「里山ボランティア育成講座」を受講しました。ここでは、その概要とそこで学んだことを簡単にご紹介したいと思います。

当講座は「地域活動の推進となる人材育成と里山活動の活性化」をねらいとしたもので、昨年の5月から12月にかけて全6回開催されました。

そこでの講座の主な内容は、樹木伐採、剪定枝の処理、下草刈り、鎌・鋸・剪定ばさみの使い方・手入れの仕方等の実践的なものから、ボランティアの在り方や救急法体験など、それぞれ里山活動の基本となるものが目白押しでした。

そこで私が感じたのは、①基本を正しく理解し実践する、②安全第一、決して無理をしない、③効率を求めないの3点です。

サラリーマン生活が長いと、習性として効率第一に考えてしまいがちです。でもそれは違うのではないかと最近は思っています。私たちが実践している保全活動は、経済活動とは違いますので、もっと長い目でゆったりと見ていく必要性を感じます。それこそがよりよい自然を子孫に残していくことにも通じるような気がしています。

12月17日(土)は上記講座の後継講座である「かわさきの森づくり」に里山の会からも数名が参加する予定です。今後も機会があれば、ぜひ多くの人に参加いただき、私たちの里山活動をより活性化していきたいと思えます。

(たまかじ)

「川崎・多摩丘陵の里山を守る会」第17回総会と定例活動

残された貴重な緑地を大切にしたいという思いから2000年に結成されたこの会も、地道な保全活動を続けてきて、17年目に入りました。ここ1~2年は、うれしいことに近隣で新しく入会された方々が増え、とりわけ若いご家族の方や子どもたちのおかげで月1回の定例活動も活気づいています。

2016年5月22日に、第17回総会を開催しました。2015年度の活動報告、決算報告、並びに2016年度の活動計画、予算案を決定し、本年度の活動予定を確認することができました。

総会後には近隣農家の芹田さん(野菜の苗の購入をさせてもらっている)の畑の見学会を行いました。茎は太く、葉は大きく立派に育っているキュウリやナスに感動し、スイカの畑作りの説明も、参加者は皆、興味深く聞いていました。ビニールハウスでは子どもたちが、イチゴも採らせてもらい大喜びでした。今後の畑作業に活かさればと思いました。

(すみれ)

【本年度活動計画】

- ・末長熊野森緑地・末長久保台公園管理運営協議会、久本山ターザンの木緑地愛護会の活動をしながら、高津区内の緑地保全活動を継続し、市の企画する里山保全講座等にも参加する。
- ・熊野森緑地は毎木調査の結果を踏まえ、更なる雑木林再生へ作業をする。又、北斜面に散策路を作る。
- ・畑の体験学習を継続する。
- ・会員の親睦・近隣住民との交流を図るため、「久保台公園まつり」を開催する。
- ・里山学習会を企画する。

【定例作業】2017年1月15日、2月19日、3月19日、4月16日、5月21日、6月18日

【活動場所】末長久保台公園 午前9時30分~10時
末長熊野森緑地 午前10時~11時30分

川崎・多摩丘陵の里山を守る会

【問い合わせ・連絡先】

URL <http://www.k-satoyama.org>
E-mail info@satoyama.org